

2年5組

5組1班

SDGsの番号：4、11

学校の防犯対策

学校は重要な学びの場であるが、同時に常に危険と隣り合わせの場でもある。その例として、学校の防犯面において私たちが気になる点を3つ挙げてみた。まず1つ目は、防犯カメラ等の防犯監視システムが充実していないこと。2つ目は、さすまたやカラーボールなどの護身具が見当たらないこと。そして3つ目は、危険発生時を想定した防犯訓練が少ないことである。文科省が公表しているデータを見ると、平成18年から25年の間の7年間で学校における防犯監視システムの整備率は13%増、護身具などの安全器具の設備率は4.5%増、防犯訓練の実施率は10%増と、全てにおいて数値が上昇していることがわかる。だが、設備があったとしても、安全器具の場所などを全員が把握できていないのは問題である。誰もが被害者になりうることを想定し、学校の危険な部分、いざという時の対応方法を発信・共有することで、自分達の安全を守れると私達は考える。



5組2班

SDGsの番号：16

ロシアが侵攻した理由

ウクライナとロシアの戦争は、2022年2月24日に始まった。ロシアは以前から、北大西洋条約機構(NATO)が自分達を敵とみなしてきたと主張していた。一方で、ソ連の構成国から独立したウクライナは今、NATOに加盟したいと表明している。ウクライナを自国に従順な国にしたいと考えているロシアは、ウクライナのNATO入りを阻止しようと武力行使を開始した。NIRA 総合開発機構によると、ロシア国内の戦争に対する支持率は、賛成が70%を超えているようだ。しかし、戦争の実際の被害を知っているロシア国民はあまり多くないために、このような結果になったのではないだろうか。この戦争によって、日本では石炭やレアメタルの輸入量に影響が出ている。それに伴い、レアメタルなどを使った製品の生産にも遅れが出ている。この戦争は対岸の火事ではなく、私たち日本人にも影響を及ぼすものとしてしっかり認識し、この戦争を注視していかなければならない。



5組3班

SDGsの番号：3、4、11、16

悲劇を起こさないため

今から約21年前に起こった、附属池田小事件について知っているだろうか。おそらく知らない人がほとんどだろう。この事件は、同校の児童8人が殺害され、15人が負傷した無差別殺傷事件だ。このような悲劇を二度と起こさないためにも、当時と現在の学校側の対策について調べてみた。当時は門が施錠されていなく誰でも入れる環境で、犯人も「門がしまっていれば入ろうと思わなかった」と証言した。現在は、遠隔操作が可能な電気錠などが設置されている学校もある。また、来校者の確認のためのインターホンや、侵入監視のためのセンサーや防犯カメラなども、多くの学校で設置されている。それに加え、避難訓練の不十分さも改善点として挙げられたため、現在では各校で定期的に行われるようになった。この事件について調べてみて、学校のセキュリティー管理の重要性を再確認した。今後も、安全性確保のために様々なシステムを導入する必要があるだろう。



5組4班

SDGsの番号：10、16

世界を平和にする方法

現在、ウクライナとロシアでは戦争が起きている。どうすれば世界が少しでも平和になるかを考え、私たちにできることを2つ考えた。1つは正しい情報を手に入れることだ。単独の情報に頼るのではなく、複数のサイトや新聞を見て、客観的に判断する事が大切である。また、ウィキペディアや個人のSNSなどの信頼性に欠ける情報源ではなく、新聞や国が運営している省庁の公式サイトなどの信頼できる情報源を見つける事が大切だ。2つめは他の国についてよく知ることだ。こちら、ただ情報を得るだけでなく、信頼できる情報源から他国の状況を知る事が大切である。また、学校での歴史の授業などから世界の歴史的背景を読み取ることも大切である。今は日本に直接被害は出ていないが、経済面で影響を受け始めている。小麦やガソリンなども値上がりを始め、このままでは私たちに被害が及ぶ日も遠くないかもしれない。だからこそ、世界に目を向ける事が大切である。



5組5班

SDGsの番号：13

節電のためにできること

私たちはみんなで協力して節電することが大切です。日本では今、電力が不足しているからです。その原因として考えられるのは、節電の意識が低いこと、発電所全体の発電量が年々減少していること、二酸化炭素を排出してしまう火力発電所の休廃止が進んでいることです。これらの対策として自分達にできるのは、節電意識を高めることです。以下はすぐにでもできる節電の具体例です。1つ目はエアコンの温度を少し下げたりあげたりすることです。夏に温度を26度から28度にするだけでも効果があります。2つ目は不要な照明を消し、明るさを少し下げることです。照明は消すのを忘れてしまいがちなので、出かける前などしっかり見てから出るようにするだけでも変わります。これだけの節電では意味がないと思うかもしれませんが、少しの積み重ねが大切です。節電は電力不足の改善以外にもメリットがあるので、みんなで協力して節電をしましょう。



5組6班

SDGsの番号：13

節電で目指す脱炭素

電気は生活に欠かせないものだが、電力不足や地球温暖化などの問題が深刻化している。特に夏場はクーラーなどで電力消費が激しく、対策を考えていかなければならない。例えば、使わないコンセントは抜く、エアコンは適切な温度に調節する、自分の家の屋根に太陽光パネルを設置したりするなど、自分達で出来る対策もある。また、「火力発電」は電力発電の中では最も主流でエネルギー変換効率が高いが、二酸化炭素の排出量が多い。それにより地球温暖化が急速に進んでおり、地球温暖化を防ぐには二酸化炭素などの温室効果ガスを削減して脱炭素社会を目指す必要がある。この対策として、風力、太陽光、水力、地熱といった再生可能エネルギーを使用することなどが挙げられる。他にも自家用車を使わずに公共交通機関を使うことも脱炭素に繋がる。自分には関係ないと思わずに、身近なところから行動してくべきだ。



5組7班

SDGsの番号：9

アイデアを商品化

歩く、座るといった日常的な動作に苦勞する高齢者は多い。一方で、そのような高齢者の生活が少しでも楽になるような素晴らしい商品アイデアを思いつく人々がいる。しかし、その商品の存在がなかなか世の中に広まらないのが現状だ。高齢者のため、また将来高齢者となる自分たちのためにも、この問題を解決していく必要がある。素晴らしいアイデアは、アイデアのままにしておかず、商品化までもっていくことが重要だ。私たちのような一般人がそれをするのは簡単ではないが、世界に発信できるツールが身近にひとつだけある。それはSNSだ。一般人のアイデアを企業に拾ってもらい商品化に繋げてもらうことで、それを必要としている人が商品を買うことができるシステムを構築することが可能になる。そうすることで、売りたい人と買いたい人の需要と供給が成り立つ。私たちは、今後もこの高齢化する日本でできることを考え、社会に貢献していきたい。



5組8班

SDGsの番号：10

情報の誤認識

昨年の8月に起きたウトロ地区の放火事件。根本的な原因としては、犯人の動機に情報の誤認識があった所にある。ネットワークが蔓延るこの時代に由々しき事と同時に、我々が向き合わなければならない問題である。2011年に発生した東日本大震災では、人々の混乱に乗じて、出回る情報も喧喧諤諤を極めた。当時の被災者にとって、特に情報不足が死活問題だった。と思えば、伝わる情報は最早あてにならないほど混濁していた。自然災害に遭ってもなお、情報は私たちの生活に絡みついてくる。この自我のない要素に振り回されないよう、我々は情報の本質を理解しなければならない。そして、自分で適切な次の行動を考える必要がある。情報の本質とは、そこに真偽が混在していることである。扱いに慎重さを欠いてしまうと、トラブルを招く可能性がある。誰かによって生み出された嘘の情報も含めて“情報”である。

